

ふじのくにグローバル人材育成事業 報告書

参加した コース	ふじのくに地域探究コース (観光交流×アジアコース)		訪問国	マレーシア	
学校名	静岡県立静岡高等学校	氏名	香月旺典	学年	2年



私は今年度の夏休みに、トビタテ！留学 JAPAN「拠点形成支援事業」の派遣留学生として、マレーシアに3週間留学をした。この留学は、“コンフォートゾーン”での生活に慣れきっていた私をリセットしてくれた、大きなターニングポイントとなるものだった。海の向こう側での体験や、日常では決して会うことのできない人との交流は、一つ一つが新鮮、かつ刺激的で、自分の価値観を、そして自分の将来を今一度見つめ直す機会となった。走馬灯に必ず登場すると思う。そんな留学だが、この事業がなければ、私は行くことができなかった。非日常で生活する留学は、費用も非日常的で、多くの人にとって現実的なことではない。私自身、海外に行きたい、留学をし

たいという思いはあっても、親にかけることになる負担を考えると言い出せず、自分でお金を稼いでから行こう！と、ある意味では諦めていた。しかし、この事業はそんな私に手を差し伸べ、親の背中を押してくれるものであった。金銭的な援助だけでなく、採択していただくための準備や事前事後の研修を通して、出資したいと思っていただけるような、価値のある留学にする手助けをもしてくれた。大学以降で海外に行っても、それはそれで学びがあると思うが、人生の方向を決める高校生のタイミングだからこそ学べたことも非常に多かったと感じ、改めて、今回留学する機会をいただけたこと、大変ありがたく思う。

ご支援いただいた全ての方、文章を通じてとしてなのが歯がゆいですが、本当にありがとうございました！



ご支援いただいた留学の成果、学びを

- 1 高校生のこのタイミングだったから学べたこと
- 2 探究を通しての学び 　　　　　に大別して以下にまとめる。

1 これは2つある。1つが、多彩なトビタテ！同期の仲間等との出会いを通じて、価値観や考えが柔軟になったことだ。16年間生きてきて、似たような学力を持つ人が集まる高校という集団に属し、さらに文理や科目選択を経て似た将来を思い描く仲間と過ごす間に、知らず知らずの間に世界が狭くなっていた。しかし、トビタテ同期の、日本代表の人や、企業とコラボしている人、ピザにとりつかれ師匠をもつ人や、現地で知りあった、自分のバイト代で海外旅行をしている同級生等との出会いを通じて、その世界が大きく広がった。今の自分の生き方は、本当に自分が望むものなのか、本当にやりたいことは何なのか、自問することができ、また、今の自分は自分が選んできたものだ実感することができた。今自分がしていることの意味、目

的を再確認できた私は、これまで以上に毎日が楽しい。2つめは、高校生は守られる存在であるということだ。やってみたいことがあったとき、自分が一步踏み出せば大人が助けてくれる、導いてくれる制度がとても充実していることを知った。自分が動きさえすればどうにかなる、どうにかしてくれる。だからこそ、これまでより挑戦できるようになった。

2 私の探究テーマは、“観光の力で静岡県をより盛り上げるためには”である。特に、ムスリムマーケットや、交通網の整備に注目して探求をした。まず、クアラルンプールにある日本政府観光局（JNTO）クアラルンプール事務所を訪ね、インバウンド観光がもたらす経済面での恩恵や、マレーシアにおける観光市場等についてレクチャーしていただき、また訪日を考えるイスラム教徒が直面する課題等についての質問に答えていただいた。インバウンド観光客の消費額が、日本人の日帰り旅行者21人分もの値であること等、新たな学びが多かった。また、イスラム教徒の訪日を妨げているものとして、食や礼拝においてイスラム教徒が特別に必要とする配慮を提供できていないことが大きな要因であると知った。続いて私は、語学学校で



知り合ったイスラム教徒の友人と行動を共にすることや、モスクでのインタビューを通して、具体的にどのような配慮が必要とされているのかについて調査した。調査の結果、礼拝については専用の部屋がなくても、簡易的な仕切りでスペースを作るだけでも十分であったり、近年駅をはじめ礼拝所の整備が進んでいたり、あまり問題を感じないことが分かった。一方で、食は深刻な問題であることが分かった。イスラム教徒が食べることの許されない“ハラム”は、よく知られた豚肉やアルコールだけでなく、屠殺の方法や運送の方法等細かい決まりがあり、それらの基準を全て満たしていることを示す“ハラール証明”を、彼らがとても必要としていることを知った。マレーシアで始まったハラール証明は、マレーシアやインドネシア等のイスラム教国家においては国が管轄する認証機関がある一方で、日本においては民間が認証を行っており、費用や審査基準の不統一等の課題が多く、普及していないことが分かった。ハラール証明の普及が、今後イスラム教徒がもたらす経済的な恩恵を受けることができるか、どうかの鍵を握っていると言える。

交通網の整備については、都市と地方を結ぶ交通網としての飛行機の普及や、ライドシェアサービスによる需要に一つ一つ対応の供給が日本との大きな違いであった。静岡県で交通網を充実させるためにできることとして、特にライドシェアサービスに注目した。仲介会社による管理や、流し(市中を走り、客を探す業務)ができないといった制限のもと、タクシー業務を一般人が行えるというものだ。ハード面の整備を必要とせず、なおかつ地方において雇用を生み出せるこのシステムは、大きな可能性を秘めている。安全性に不安を感じていたが、仲介会社による厳格な管理があるため、日本におけるタクシーと同等の安全性が担保されていた。

